

中核市発 持続可能な社会を創造する「地域共創人」の育成

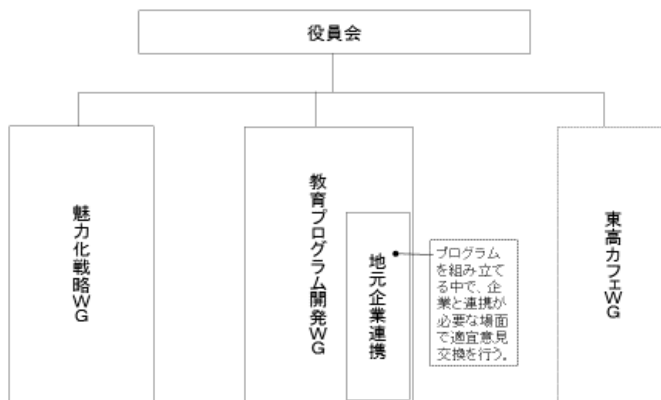
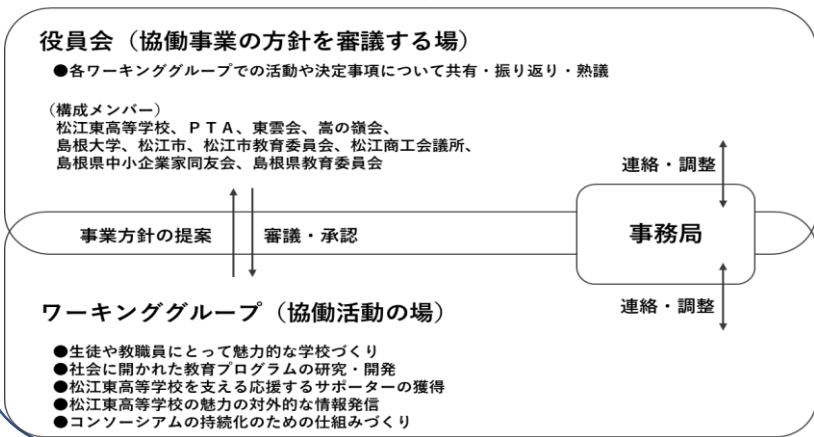
研究開発の背景

- ・「県立学校魅力化ビジョン(平成31年2月県教委策定)」により「島根大学や地域との連携を強化して地域課題解決型学習による実践的な学びを実施するとともに、多様な選択教科を開設できる単位制普通高校として、Society5.0で生き抜く力を養成する教育を展開する」学校となることを求められている。
- ・人口減少問題を抱える本県（松江市）では、地域の将来を担う人材の育成が重要な課題となっており、教育に大きな期待を寄せられている。
- ・本校及び地域が抱える課題を克服するためには、地域課題解決等の探究的な学びを行う「社会に開かれた教育課程」の編成が不可欠である。

コンソーシアムの構成等研究開発の実施体制

コンソーシアム概念図

コンソーシアム体制図



- ・探究的な学びを実現し、魅力化を図るために新たな分掌「魅力化推進部」を設置
- ・校長の下で研究開発の進捗管理を行い、定期的な確認や成果の検証・評価等を通じ、計画の改善を図る「校内連絡会」を設置
- ・教育プログラム開発WG
 高校・大学教員、企業の3者で「総合的な探究の時間」の探究活動のプログラムを設計・企画を行う。
- ・魅力化戦略WG
 高校・大学教員、企業の3者で今後の東高魅力化の大きな方向性を話し合う。
- ・東高カフェWG
 高校教員、生徒、企業の3者で、地域の大人と生徒が自由に意見交換等を行う。

令和2年度の目標

取組状況,成果

1 「地域共創人育成Project」の実施	2学期からの本格実施となり、期間を短縮して行ったが、概ね目的は達成された。
2 i) 学校設定科目「データサイエンス」を開講	計画どおり実施でき、生徒はデータサイエンスの手法を学ぶことができた。
ii) 次年度開講予定の学校設定科目の研究	概ね計画どおり実施でき、次年度に向けた準備を行うことができた。
3 「主体的・対話的で深い学び」を実践する授業力向上	校外の講師を招いたり、先進校視察等は実施できなかったが、校内研修を実施し、授業力向上を図ることができた。
4 i) 学校設定科目「EAST国際交流基礎」を開講	計画どおり実施でき、生徒は留学生との交流学習を複数回実施することができた。
ii) 次年度開講予定の学校設定科目の研究	計画どおり実施でき、次年度に向けた準備を行うことができた。
iii) 地域のボランティアに参加	年度後半からの実施となったが、これまで以上に参加が増え、地域貢献への意識が高まった。
5 コンソーシアムのワーキンググループ「東高カフェWG」の設置	計画どおり設置し、プレも含め6回実施できた。生徒のキャリア形成に効果があった。
6 単位制カリキュラムの構築及び新学習指導要領の教育課程研究	計画どおり実施し、次年度から始まる単位制の準備を行うことができた。

課題

- ・生徒の学ぶ意欲をさらに向上、発展させる仕組みづくりを引き続き検討していく必要がある。
- ・教員においても地域と協働した探究的な学びの必要性が概ね認識されてきたが、より意欲的に取り組むような仕掛けづくりの検討していく必要がある。
- ・新学習指導要領の内容を踏まえ、教科横断的な学びや総合的な探究の時間と各教科との連携をさらに深化していく必要がある。